

国際活動への理解と、日本の積極的な参加を促すために本社が創設した読売国際協力賞の第二回受賞者は「アジアはじめ世界各地で緊急医療援助活動などを展開しているAMD A(アマダ)アジア医師連絡協議会本部・岡山市楠津三二〇の一、菅波茂代表、内外の会員九百人」に決定しました。正賞と副賞五百万円を贈ります。(10面に関連特集)

## 第2回読売国際協力賞

# 緊急医療援助のAMD Aに

本賞は、国際協力の分野で際立った活躍をし、国際社会への貢献と協力の重要性を身をもって示した個人・団体を顕彰するもので、読売新聞が創刊百二十周年を迎えた昨年創設されました。

AMD Aは一九八四年の発足以来、岡山市を本拠に医師・看護婦らのネットワークをアジア全域に広げアジア、アフリカ、ヨーロッパの各地を舞台に緊急医療援助などを展開している国際NGO(民間活動団体)です。

本賞の選考委員会では、AMD Aの過去十一年間にわたるさまざまな人道援助活動の実績をはじめ、昨年からの年にかけて、ルワンダ内戦、旧ユーゴスラビア紛争、サハリン震災、チェチェン内戦など、国際的な注目を集めた紛争・災害の最前線における緊急救援活動で多大な貢献を残したことを高く評価したものです。

AMD Aの菅波茂代表を迎えての贈賞式は、東京・パレスホテルで十月九日開催します。

### 編集手帳

ルワンダ難民救援でサイールのキャンプに診療所を開いたときのこと。「戦火を逃れ、そこで男児を出産した

母親が、その子に『アムダ』という名前をつけてくれました」◆アムダ、AMD A。日本はじめアジア十五か国の医師約九百人でつくるアジア医師連絡協議会の略称だ。昨年のサイールでのうれしい思い出をその代表、菅波茂医師が語っている◆活動の原点は七九年にさかのぼる。カンボジア難民を助けようと、菅波さんは医学生三人と現地に飛ぶ。が、まるで役に立たず、その苦い体験がしっかりと組織づくり、とりわけ各国の医師との連携の大切さを教えてくれた◆結成して十一年、ソマリアやルワンダ難民救援、サハリン地震被災者の緊急医療などで積極的に活動してきたAMD Aが、読売国際協力賞に輝く◆多く「人権思想」に根ざした欧米の救援活動に対し、日本人の活動の理念は「相互扶助」がささわっているのでないか。援助者―被援助者の上下関係ではない。身内が助け合うような関係をつくりたいと、菅波さんは考える◆多国籍の医師たちの連携は、その象徴だ。まず、お互いに知り合い、そして、情けは人のためならず。この「相互扶助」理念が日本の水戸黄門活動を支えているのではないだろうか。